

メキシコ工場 スペイン語指示コミュニケーションガイド

—現場トラブルを防ぐ指示の伝え方—

【お試し版】

MexicoWorkPlaceLab

2026

はじめに

本誌は、メキシコ工場におけるコミュニケーション起因のトラブルを未然に防止することを主たる目的としています。

現地スタッフとのやり取りにおいて生じやすい指示不履行・反発・報告遅延といったリスクは、品質問題、納期遅延、労務紛争へと発展する可能性があります。

本誌ではこうしたリスクを低減するため、現場で即時に活用できるスペイン語の指示表現と、実際に発生しやすいコミュニケーション上の失敗事例を整理しています。

日常業務における指示表現の適正化を通じて、摩擦・誤解・心理的対立を避け、安定した現場運営を実現することを狙いとしています。

このガイドが必要な理由

ー メキシコ工場における労務リスクの背景

メキシコ工場で働く日本人管理者が最初に直面する課題の一つは、「指示が通らない」「報告が遅れる」といったコミュニケーションの問題です。しかし、こうした問題が積み重なると、単なる業務上の摩擦ではなく、労働組合との対立や労務紛争につながる可能性があります。近年、メキシコ製造業では労働環境に対する監視が強化されています。

- **USMCA Rapid Response Mechanism (RRM)**

複数の製造拠点が対象となる事例が報告されています。

- **コミュニケーションの問題が労務トラブルの要因になるケース**

指示の出し方や職場での言い方がハラスメントと受け取られ、労働組合との対立につながるケースも報告されています。

- **STPS（メキシコ労働社会省）の労働検査の強化**

職場環境やハラスメント防止体制に関する検査が拡大しています。

こうした背景から、現場での指示の出し方やコミュニケーションの方法が、以前よりも重要になっています。

第1章 現地運営におけるリスク構造

1-1 現地スタッフとの摩擦が招くリスクシナリオ

メキシコの工場では、現地スタッフとのコミュニケーションに起因する摩擦が発生することがあります。特に多いのが、「指示の出し方」に関する摩擦です。指示する側としては通常の業務指示のつもりでも、現地スタッフからは配慮がないと受け取られてしまうケースがあります。最悪の場合、下記のような様々なリスクに発展することもあります。

- ・ 現地スタッフが問題や不具合を自ら積極的に報告しなくなるリスク
- ・ スタッフのモチベーションが低下し、離職が増えるリスク
- ・ 指示に対して従わなくなる（消極的な抵抗やサボタージュが発生する）リスク
- ・ ハラスメント（Acoso）問題に発展するリスク
- ・ ストライキや労働争議が発生するリスク

（※メキシコでは労働組合が非常に強く、労働条件の決定に大きな影響力を持っているため注意が必要です。実際に、工場管理者の威圧的な態度や不当な命令に対して、現地スタッフが強く反発し、ストライキや抗議に発展した事例が複数報告されています。また、日系企業を含む外資系工場でも、労働当局による調査・是正勧告を受けたケースがあります。）

「メキシコはフランクな文化なので、直接的な表現で指示しても問題ない」と誤解される場合があります。

しかし、それは**信頼関係が十分に築かれている場合**に限られることが多いです。

信頼関係がまだ十分でない段階では、配慮を示す間接的な伝え方が好まれる傾向があります。

このような背景から、配慮を欠いた指示は、内容が正しくても現場で摩擦を生むことがあります。このようなコミュニケーションの行き違いが原因となるトラブルは、メキシコに進出している各国企業で報告されています。

つまり、これは個人の性格や能力の問題というよりも、文化的前提やコミュニケーション様式の違いが影響して起きる問題だと考えられます。

1-2 よくある指示上の摩擦例

※その他の指示上の摩擦事例（改善例付き）は、第4章に掲載しています。

メキシコ工場において、日本人管理者による直接的で強い命令口調が、現場の反発や関係悪化につながった事例が報告されています。

例：¡Hazlo ya mismo!（今すぐやれ！）

このような即時命令は、意図としては「急ぎの指示」であっても、相手には威圧的・冷淡な表現として受け取られる可能性があります。

日本人管理者は、***

第2章 スペイン語文法の理解不足による誤解

2-1 スペイン語の動詞活用ミスによる意思疎通トラブル

スペイン語は主語に応じて動詞が変化するため、初学者には複雑に感じられがちです。例えば、話す(hablar)という動詞の活用は下記の表の通り、現在形だけでも6つの形があります。過去形、未来形も加えるとさらに増えます。

表 1. hablar の活用（現在形）

主語	活用形
yo	hablo
tú	hablas
él / ella / usted	habla
nosotros / nosotras	hablamos
vosotros / vosotras	habláis
ellos / ellas / ustedes	hablan

動詞の活用を誤ると、意図せず命令的または非難的に聞こえてしまうことがあり、コミュニケーション上のリスクになります。

2-2 動詞活用ミスの事例

メキシコの工場で、日本人管理者が現地スタッフに「この部品をすぐにチェックしてほしい」と伝えたときのケースです。

正しい丁寧な表現のつもりで言ったはずが、動詞活用の間違いによって、下記のように発言してしまいました。

Revisa esto ahora. （今すぐこれをチェックせよ）

誤：Revisa ←tú 形の命令形

正：Revise ←usted 丁寧形

メキシコの職場では、上司が部下に指示を出す場合でも、**usted（丁寧形）**を使うのが一般的です。tú 形を使うと、意図に関係なく、命令的で配慮のない印象を与えることがあります。

動詞活用の違いは小さく見えても、相手には「敬意の差」として受け取られる可能性があります。

本編では次の内容を具体例とともに解説しています。

- ・現場で使えるスペイン語指示表現の作り方（初心者でも使える表現）
- ・指示のニュアンスと伝え方の整理
- ・現場で起きやすい指示トラブル 10 事例
- ・トラブルを避ける改善フレーズ
- ・そのまま使えるスペイン語例文集

これらの内容を、メキシコ工場の現場で実際に使える形で整理しています。

指示の伝え方による摩擦や誤解を減らし、
現地スタッフとのコミュニケーションを円滑にすることを目的とした実務ガイドです。